資料４

通学区域制度の弾力的運用を検討する地区の学校づくりについて

１　検討の趣旨

小規模特認校制度等の通学区域制度の弾力的運用を検討する方向性とした、次の学校について今後の取組の進め方を検討するもの。

地区	学校名	検討する方策	【参考】中学校区
小鮎	小鮎中学校	小規模特認校	小鮎中
玉川	玉川小学校		玉川中、森の里中
森の里	森の里小学校		森の里中
	森の里中学校		
南毛利南	東名中学校		東名中
相川	相川小学校	学校選択制	東名中、相川中

※玉川小学校の小規模特認校制度、相川小学校の学校選択制については、現時点で制度を導入しているため、今後も継続していく

２　小規模特認校制度の目的について

少人数ならではの温かい指導や、地域と連携した特色ある教育活動が展開されている小規模校において、特例として、通学区域外からの入学を認めることで、児童の心身の健康増進を図るとともに、豊かな人間性を培うことを目的とした制度

３　小規模特認校制度の効果について

現在、玉川小学校では小規模特認校制度を平成 28 年度から採用している。制度利用による入学者数は次のとおり。

【①玉川小学校の取組について】

特色	取組内容
農業体験活動	米、小麦、大豆等の栽培を通した地域の方々との交流
地域学習	地区の史跡見学、玉川周辺の生きもの観察等
ＰＴＡ関連行事	あいさつ運動、ＰＴＡふれあい祭り
伝統文化活動体験	せんみ凧づくり、昔遊び

【②制度利用入学者数の推移】

年度	H28	H29	H30	R１	R２	R３	R４	R５	R６
入学者数	７人	７人	３人	８人	２人	６人	５人	２人	３人

【③全児童に対する制度利用児童の割合（令和６年度現在）】

全校児童数	制度利用児童数	割合
115 人	21 人	18.3%

【④制度利用者アンケートの結果について（Ｒ５年度実施 玉川小学校）】

アンケート結果については別紙のとおり。

４　他市の事例について

他市における小規模特認校実施校及び特色ある取組内容については次のとおり。

自治体名	学校名	取組内容
神奈川県 伊勢原市	大山小学校	・縦割り活動 ・地域文化の学習（創作狂言、大山桜） ・少人数授業
神奈川県 小田原市	片浦小学校	・少人数授業 ・農園活動 ・金管バンド ・地域行事への参加 ・放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体化
神奈川県 秦野市	上小学校	・田植え活動 ・お茶摘み、ぶどう狩り ・遠泳大会 ・少人数授業 ・園小一貫教育
福岡県 行橋市	蓑島小学校	・マテ貝掘り ・牡蠣の種付け、牡蠣うち ・サツマイモの苗付け、収穫 ・少人数授業 ・縦割り活動
静岡県 藤枝市	葉梨西北小学校	・蛍の育成 ・米、野菜作り
	瀬戸谷小学校	・茶摘み ・田植え ・いちご狩り ・小中合同体育祭
	朝比奈第一小学校	・アサギマダラの生態学習 ・手摘み茶体験 ・ちまき作り、大龍勢（花火）等地域行事への参加
埼玉県 八潮市	八條北小学校	・少人数授業 ・全校遠足 ・田植え体験 ・外国語学習 ・小中合同運動会

千葉県 柏市	手賀東小学校	・農業体験 ・縦割り活動の推進 ・地域文化学習
栃木県 宇都宮市	城山西小学校	・農業体験 ・文化人による授業 ・地域住民による放課後教室 ・コミュニケーション力を育成する「会話科」の充実 ・こがし桜スクール（保護者と地域の連携による、放課後や長期休業中の活動）
	清原北小学校	・小中一貫教育 ・地域文化学習 ・コミュニケーション力を育成する「会話科」の充実 ・ＫＡＳＡ活動（保護者と地域の連携による、放課後や長期休業中の活動）

他市の事例を見ると、特色ある取組として、少人数授業、縦割り活動、農業体験、自然を生かした教育活動等が多くの学校で取り入れられている。特に、宇都宮市の２校については、地域が積極的に参加する放課後活動等の取組により、多くの学区外児童から選択されている。

５　今後の取組について

方策実施に向け、より効果的な検討を進めるため、小規模特認校制度導入時に期待できる効果及び課題等について整理し、地区の実情を踏まえた学校づくりにつなげていく。

今年度については、まず学校教職員に対するヒアリングを実施し、その結果を踏まえ、教育委員会で検討を進め、来年度以降の具体的な方向性の検討につなげていく。